

## 1999 年の日本の主な火山活動

### 概況

桜島では活発な噴火活動が続き、特に 12 月は噴火活動が活発であった。岩手山では噴気活動が活発化した。

### 雌阿寒岳

5～6 月にかけて、高感度カメラによる遠望観測で、ボンマチネシリ 96-1 火口付近が夜間明るく見える現象を時々確認した。赤外放射温度計によるボンマチネシリ 96-1 火口温度は、6 月以降 600 以上の高温状態が続いている（最高は 10 月測定 の 696）。また、北東山麓の渋川泥火山では、7 月以降 9 年ぶりに噴気活動が再開した。

10 月 25～31 日にかけて火山性地震がやや増加し、この間の地震回数の合計は 70 回となったが、噴煙等の表面現象に異常はなかった。雌阿寒岳では、1996 年 11 月の噴火以降、地震回数が減少して 1 月当たり 50 回以下となり、1998 年 11 月の噴火以降更に回数が減少し、1 月当たり 20 回以下の非常に少ない状態が続いていた。

9 月 7 日及び 9 月 28 日の全磁力観測<sup>\*1</sup>で、前回（1998 年 7 月 21 日及び 9 月 29 日）から今回の間に、ボンマチネシリ 96-1 火口付近の地下で、温度上昇が起きたと考えられる磁力変化（熱消磁<sup>\*2</sup>）を観測した。

### 十勝岳

1 月～9 月にかけて、高感度カメラによる遠望観測で 62-2 火口付近が夜間明るく見える現象を時々確認した。

5 月 27 日に空振（空気の振動）を伴う火山性地震が 1998 年 4 月以来、およそ 1 年ぶりに観測された。遠望カメラによる観測及び現地調査では、噴煙及び火口周辺に異常は認められなかった。

### 樽前山

5 月 1 日～3 日にかけて火山性地震が増加し、地震回数は 2 日 211 回、3 日 173 回となった。この間、火山性微動は観測されず、噴煙等に異常はなかった。日地震回数が 100 回以上となったのは、1981 年 2 月 21 日以来である。その後、7 月 1 日～10 日にかけて再び火山性地震が増加し、2 日～5 日と 7 日には、日地震回数が 50 回以上となった（最多は 5 日の 87 回）。

A 火口では活発な噴煙活動が続き、赤外放射温度計による A 火口の温度は、5 月に 482 を観測して以来高温状態が続いている（最高は 11 月の 619）。11 月の現地観測では A 火口内にごく弱い赤熱現象を観測した。

ドーム南西火口の噴煙活動は、1 月 13 日以降、遠望観測で確認できる程度にまで活発化した（遠望観測で確認できたのは 1995 年 3 月以来）。ドーム南西火口の東側内壁には、硫黄の付着による新たな変色域を確認した。ドーム南西噴気孔群では噴気温度が上昇する傾向にあり（10 月 163）噴気孔も拡大している。

火口原北東噴気孔では、5 月の現地観測で 23 年ぶりに微量の亜硫酸ガスを観測したが、その後観測していない。

### 北海道駒ヶ岳

3 月 1 日に継続時間が約 1 分間の振幅の小さな火山性微動を観測した。火山性微動を観測したのは、1998 年 10 月 25 日の噴火時以来であった。

### 岩手山

1995 年 9 月に火山性微動と火山性地震の発生が観測されて以来、1998 年には岩手山西側で火山性微動、火山性地震の増加に加えて地殻変動にも大きな変化が現れて火山活動が活発化した。1998 年 9 月 3 日には岩手山の南西で M6.1 の大きな地震が発生し、それ以降は火山性地震回数が減少した（図 1 参照）。

1999 年に入っても地震回数の少ない状況は続いたが、5 月 22 日大倉山西側で M3.6 の地震が発生し雫石町長山で震度 4 を観測したのを始め、6 月 13 日にも三ツ石山付近で M3.6 の地震により雫石町長山で震度 3 を観測するなどの地震活動が続いた。また、11 月 12 日には振幅の大きな微動が観測された。

1998 年に比べて減少した地震回数とは対照的に、岩手山西側の噴気活動は 1999 年 5 月頃以降次第に活発になり大地獄谷～黒倉山・姥倉山鞍部にかけて噴気が一時的に強まる現象が度々見られるようになった。

### 吾妻山

7 月以降火山性地震が増加し始め、9 月及び 10 月にはそれぞれ 32 回及び 31 回に達し、その後やや減少した。火山性微動は 6 月～10 月まで毎月観測され、特に 7 月に多く、10 回観測された。

### 安達太良山

5 月、6 月、7 月、9 月及び 10 月の現地観測で、沼ノ平（火口）で新たな泥噴出跡と 1996 年からの泥噴出が継続しているのを確認した。また、沼ノ平南西部では依然として噴気活動が活発であることを確認した。

全磁力観測<sup>\*1</sup>によると、1998 年まで著しかった沼ノ平の地磁気変化（熱消磁<sup>\*2</sup>）は鈍化した。

### 那須岳

3 月 26 日に那須岳付近のごく浅いところを震源とする火山性地震が多発した。

### 日光白根山

10 月下旬～11 月上旬にかけて山体直下約 10km を震源とする火山性地震が多発した。

### 浅間山

火山性地震は 1 日当たり 10 回前後で推移していたが、8 月上旬から中旬にかけて多発し、8 日に 117 回、9 日に 180 回となり日回数が 100 回を超えた。日回数が 100 回を超えたのは 1996 年 12 月 7 日以来であった。

また、火山性微動は、8月と9月にそれぞれ1回観測された。火山性微動を観測したのは1997年9月23日以来であった。

その後、9月及び10月は、地震回数が減少していたが、11月～12月上旬にかけて、再び地震回数がやや多くなった。

### 富士山

たびたび低周波地震を観測し、特に6月と7月に多かった。

### 伊豆大島

7月28日～8月3日にかけて島内東部を震源とする火山性地震が多発した。地震回数の合計は63回で、このうち震度1以上を観測した地震は25回、最大震度は、30日に観測した大島町差木地の震度3であった。

### 三宅島

4月25日に低周波地震が1回発生した。震源は三宅島付近で、深さは約20kmであった。

### 噴火浅根

9月7日に海上保安庁の航空機観測により変色水域が確認された。変色水域が確認されたのは1998年5月以来であった。

### 福徳岡ノ場

海上保安庁や海上自衛隊による航空機観測により1月、9月、11月に、変色水域が確認された。特に9月に観測された変色水域は幅約1,000m、長さ約4,000mにおよぶ規模の大きなものであった。

### 鶴見岳

12月20日～21日に山頂の東約3km深さ5km前後を震源とする地震が多発し、震度1以上の地震（別府市鶴見で震度3を4回）を37回観測した。

### 雲仙岳

5月14日に継続時間60秒の火山性微動が観測された。雲仙岳で火山性微動が観測されたのは1998年11月1日以来であった。また、11月24日にも継続時間60秒の火山性微動を観測した。

### 霧島山

1月18日に韓国岳の南東約10km、深さ約15km付近で低周波地震が7回発生した。

11月6日から新燃岳を震源とする火山性地震が増加した。11月10日の192回をピークに次第に減少していたが、12月16日に火山性微動が発生し、微動の発生中に地震が多発した。その後26日、27日、30日にも振幅の小さい火山性微動が発生した。

### 桜島

年間を通して噴火・爆発を繰り返した。特に後半は噴火活動が活発で、7月以降は噴火・爆発が増加し、12月3日～25日までは毎日爆発が発生し、連続日数としては1955年10月の爆発観測開始以来最長の23日となった。12月の爆発回数は88回で、1974年6月の93回に次ぐ第2位の記録であった。年間の噴火回数は386回（1998年178回）、そのうち爆発回数は237回（1998年103回）であった。

### 薩摩硫黄島

火山性地震は、1月～6月はじめにかけて1日当たり50～130回と多い状態で推移した。6月中旬～10月にかけては、1日当たり数回～30回に減少し、11月以降は1日当たり数回程度とさらに減少した。三島村役場によると、1月24日をはじめ数回の降灰が確認された。

### 口永良部島

京都大学防災研究所附属火山活動研究センターによると、7月から火山性地震が増加し始めた。10月には1日当たり50回を超えるなどピークに達した。その後、やや減少したが地震の多い状態は12月末現在も続いている。

また、口永良部島の東約10kmの海域では、深さ5～10kmを震源とする地震が11月下旬から1日あたり10～20回程度観測されており、12月末現在も続いている。

### 諏訪之瀬島

鹿児島県によると、1月に7回の火山灰の噴出と2回の鳴動が観測された。降灰が観測されたのは1997年4月以来1年9ヶ月ぶりであった。また、11月に島内で降灰があった。

- \* 1：磁場の強さの観測。
- \* 2：磁性体は、高温になると磁力を失う。このことを熱消磁という。

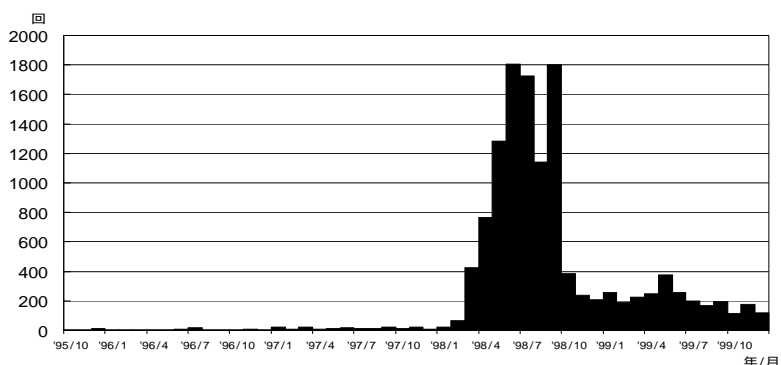


図1 岩手山月別地震回数（1995年10月～1999年12月）

表 1 1999 年の月別火山活動状況

火 山 名	: 噴火した月 観測データに変化のあった月											
	1999年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
雌阿寒岳												
十勝岳												
樽前山												
北海道駒ヶ岳												
岩手山												
吾妻山												
安達太良山												
那須岳												
日光白根山												
浅間山												
富士山												
伊豆大島												
三宅島												
噴火浅根												
福德岡ノ場												
鶴見岳												
雲仙岳												
霧島山												
桜島												
薩摩硫黄島												
口永良部島												
諏訪之瀬島												

表 2 1999 年の火山情報の月別発表状況（定期火山情報を除く）

火 山 名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
雌阿寒岳	臨時観測													0
	観測									1				1
樽前山	臨時観測					1								1
	観測					12	1	11	1					25
北海道駒ヶ岳	臨時観測													0
	観測			1										1
岩手山	臨時観測		1			1					1	1		4
	観測	3	3	2	3	7	2	2	2	2	2	5	2	35
浅間山	臨時観測													0
	観測								6					6
霧島山	臨時観測											1		1
	観測											14	8	22
桜島	臨時観測			1					1		1		1	4
	観測			1					3			4	7	15
薩摩硫黄島	臨時観測													0
	観測	1	1	1	1	1	1	1						7
口永良部島	臨時観測								1					1
	観測									3	3	3	3	12

## 1999 年の日本の火山災害

火山災害はなかった。

図2 国内の火山活動分布図（1999年1月～12月）

